



平成22年度

# 業務実績の概要

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

独立行政法人 国立国際医療研究センター  
National Center for Global Health and Medicine

# 1. 国立国際医療研究センターの概要

## 1. 設置

平成22年4月1日設立

「高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律（平成20年法律第93号）」

## 2. センターの行う業務

- ① 感染症その他の疾患に係る医療に関し、調査、研究及び技術の開発を行うこと
- ② 上記の業務に密接に関連する医療を提供すること
- ③ 医療に係る国際協力に関し、調査及び研究を行うこと
- ④ 感染症その他の疾患に係る医療及び医療の国際協力に関し、技術者の研究を行うこと
- ⑤ 上記の業務に係る成果の普及及び政策の提言を行うこと
- ⑥ 国立高度専門医療研究センターの職員の養成及び研修を目的として看護に関する学理及び技術の教授及び研究並びに研修を行う施設を設置し、これを運営すること
- ⑦ 上記の業務に附帯する業務を行うこと

### 《理念》

国立国際医療研究センターは、人間の尊厳に基づき、医療・研究・教育・国際協力の分野において、わが国と世界の人々の健康と福祉の増進に貢献します。

- 世界に誇れる最善の医療と研究・教育を目指します。
- 明日を担う優れた医療人の教育と育成に努めます。
- 医療・研究・教育・医療協力の成果を広く社会に発信します。
- 医療協力を通じて国際社会との架け橋になります。

## 3. 役職員数（常勤）

1,507人 役員数 4人（平成23年4月1日現在）  
職員数 1,503人（平成23年1月1日現在）

## 4. 組織（平成23年4月1日現在）

研究所、病院、国府台病院、国際医療協力部、国立看護大学校、企画戦略室、コンプライアンス室、監査室、事務部門

## 5. 研究所

7 研究部、糖尿病研究センター、肝炎・免疫研究センター

## 6. 病院（平成22年度実績）

《規模》センター病院	運営病床数：769床 （一般病床687床、結核病床40床、 精神病床 38床、感染病床 4床）
国府台病院	運営病床数：353床 （一般病床218床、精神病床135床）
《患者数》センター病院	1日平均入院患者数 631.3人 1日平均外来患者数 1,591人
国府台病院	1日平均入院患者数 267.2人 1日平均外来患者数 767.9人

## 7. 国際医療協力部（平成22年度実績）

海外派遣者数 167人  
海外からの研修受入数 252人

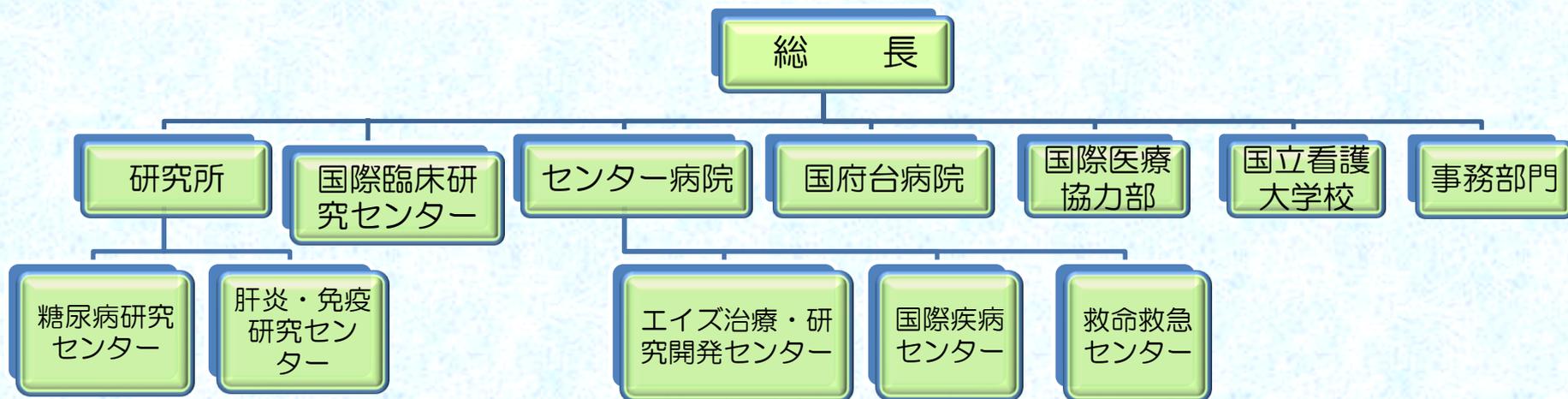
## 8. 国立看護大学校（平成23年4月1日現在）

学生数 399人

## 9. 財務

- センターとしての使命を果たすための経営戦略や毎年の事業計画を通じた経営管理により、中期計画期間累計で収支相償の経営を目指しています。
- 平成22年度は、センター全体で総収支△7.5億円（総収支率97.8%）、経常収支△0.5億円（経常収支率99.8%）であり、独法化初年度はマイナスのスタートとなっています。

## 2. 組織概要



### 基本構造



# 3. 各部門の主な特色 (その1)

研究  
・  
臨床  
研究

## 研究所

- ▶ 2型糖尿病関連遺伝子の中でも人種を越えて最も重要な遺伝子の一つを同定
- ▶ ウィルス肝炎治療の有効性を遺伝子診断により治療前に判定  
治療効果を規定する宿主因子(SNPs)は19番染色体に存在し、治療前に測定することでインターフェロン+リバビリン治療効果を予測可能となる。
- ▶ 海外拠点との共同研究によりH5N1 (鳥インフルエンザ) 迅速診断キットを開発



H1N1

H5N1

判定ライン出現の有無で誰でも判定可能

- ・ ベトナムで新開発迅速キットにより感染患者の特定に**世界で初めて**成功した。
- ・ ウィルス変異の影響も実質的に皆無であることを確認済み。



## センター病院

- ▶ 30余の診療科を有し高度先駆的・総合医療の提供
- ▶ 平成22年9月救命救急センター指定
- ▶ 研修医、レジデント、フェロー等総合的な人材育成
- ▶ ACCは、我が国のエイズ治療・研究開発のトップ機関
- ▶ DCCは、国際感染症対策等の国家危機管理機関、その充実強化を実施
- ▶ 糖尿病研究センターとの連携による糖尿病治療等の拠点機関として充実強化を実施

平成22年度完成



診療

## 国府台病院

- ▶ 肝炎・免疫研究センターを整備、連携体制を構築し、  
肝炎・免疫を主体とした診断・治療・予防等に貢献
- ▶ 地域医療機関等と連携した一貫性のある児童精神科医療の提供
- ▶ 精神科救急の実施

平成23年度完成予定



# 3. 各部門の主な特色 (その2)

## 国際 協力

### 国際医療協力部

- 国際機関/JICAとの開発途上国に対する国際保健医療協力事業の実施（母子保健、感染症対策、保健システム強化・緊急援助）
- 国際保健医療に関する情報提供
- 国際保健医療協力に関する国内外の専門家の育成
- 国際保健医療協力機関間のネットワーク構築



## 看護 教育

### 国立看護大学校

- 高い臨床看護実践能力、臨床看護研究能力を備えた看護師の育成
- 国際医療協力に貢献できる看護師の養成
- 国立高度専門医療センターにおける将来の幹部看護職員の育成



運営フォロー：事務部門  
総務部、人事部、企画経営部、財務経理部、  
事務部（国府台）、監査室

# 4. 中期計画の概要 (平成22年4月～平成27年3月)

## 国立国際医療研究センターの運営方針

国際保健の向上に寄与、質の高い全人的な高度専門・総合医療の実践とその均てん化、疾病の克服を目指す臨床開発研究の実施 [中心疾患：感染症、糖尿病・代謝性疾患、肝炎・免疫疾患]

### 研究・開発に関する事項

- ◆ 臨床を志向した研究・開発の推進
- ◆ 病院における研究・開発の推進
- ◆ 担当領域の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究・開発の推進

### 人材育成に関する事項

- ◆ リーダーとして活躍できる人材の育成
- ◆ モデル的研修・講習の実施

### 医療の均てん化と情報の収集・発信に関する事項

- ◆ ネットワーク構築の推進
- ◆ 情報の収集・発信

効率的な業務運営の実施による安定的な経営基盤の確立

### 効率的な業務運営に関する事項

- ◆ 効率的な業務運営体制
- ◆ 効率化による収支改善

### 電子化の推進

- ◆ 電子化の推進による業務の効率化
- ◆ 財務会計システムの導入による月次決算の実施

### 医療の提供に関する事項

- ◆ 高度先駆的な医療、標準化に資する医療の提供
- ◆ 患者の視点に立った良質かつ安心できる医療の提供
- ◆ その他医療政策の一環として実施すべき医療の提供

### 国への政策提言に関する事項

### その他我が国の医療政策の推進等に関する事項

- ◆ 公衆衛生上の重大な危害への対応
- ◆ 国際貢献
- ◆ HIV・エイズ ◆ 看護に関する教育及び研究

### 法令遵守等内部統制の適切な実施

収支相償の経営を目指し  
5年間累計した損益計算で  
経常収支率100%以上

# 5. 平成22年度の取組み状況 (その1)

## 【研究・臨床研究】

( ) 内の頁数は事業報告書に対応

### ◆ 臨床を志向した研究・開発の推進 (P. 17~)

- 研究所と病院等、センター内の連携強化 (P. 17)
  - ・ Physician scientist育成にむけた懇話会を開催
  - ・ 臨床研究推進に向けた体制を整備
  - ・ データマネジメント機能を活用できる環境を整備
- 産官学等との連携強化 (P. 18)
  - ・ 早稲田大学理工学部と研究者同士の交流を開始 (WANCOの会) 4回開催
  - ・ 理化学研究所と研究シーズに関する意見交換会を実施
  - ・ 開発初期の臨床研究：共同研究7件 (民間6件、大学1件)
- 研究・開発の企画及び評価体制の整備 (P. 18)
  - ・ 事前評価委員会と中間・事後評価委員会を分離
  - ・ 評価にあたり配点基準を示し点数化、客観的な評価を実施
- 知的財産の管理強化及び活用推進 (P. 18)
  - ・ 全職員を対象にした知財に関する説明会を開催
  - ・ 知的財産戦略ネットワークと連携会員契約を締結
  - ・ 国内における新規発明出願件数 4件 (企業、大学等との共願)

### ◆ 病院における研究・開発の推進 (P. 19)

- 臨床研究機能の強化 (P. 19)
  - ・ 国際臨床研究センターの体制を整備
  - ・ 治験実施症例数 130件 (戸山地区)  
53件 (国府台地区)
  - ・ 治験申請から症例登録までの期間  
110日 (戸山地区)  
123日 (国府台地区)
- 倫理性・透明性の確保 (P. 19)
  - ・ 外部専門家を加えた倫理委員会の適正な運営
  - ・ 委員会の定期的な開催 (一般8回、遺伝子解析研究4回)
  - ・ 倫理委員会の結果をホームページで公表



### ◆ 担当領域の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究開発の推進 (P. 20~)

- 疾病に着目した研究 (P. 21~)
  - ・ HIV新規感染者への耐性検査の実施、薬剤耐性状況の把握及び遺伝子解析を191例実施
  - ・ メキシコにおける新型インフルエンザ死亡例の病理像の解明研究 など
  - ・ 糖尿病合併症、慢性肝疾患、免疫疾患の基礎・臨床研究を実施
- 均てん化に着目した研究 (P. 25~)
  - ・ H5N1診療の研修プログラムを開発・推進
  - ・ H5N1診療実践マニュアルの作成
  - ・ ベトナム北部医療従事者へアンケート調査を実施
  - ・ かかりつけ医向け及び糖尿病専門医向けのマニュアルを作成
  - ・ 肝炎拠点病院間連絡協議会、医療従事者向け研修会を開催
  - ・ エイズ医療についてホームページ上にE-learningサイトを更新
  - ・ H5N1感染の研究活動を専用ホームページで公開
  - ・ 糖尿病の最新のエビデンスを医療従事者向けに配信
  - ・ 肝炎について最新情報をホームページで公開、相談センターとのリンク
- 国際保健医療協力に関する研究 (P. 28~)
  - ・ 国際保健協力データベース作成と情報発信に関する研究
  - ・ 海外の感染症対策及び研究ネットワーク体制強化に関する研究
  - ・ アフリカおよびアジアにおける保健システム強化と住民の連携によるマラリア制圧に関する研究
  - ・ アジアでの研究ネットワークを通じたART (エイズ治療) 拡大後の国際協力に関する研究
  - ・ 開発途上国における新興・再興感染症サーベイランスに関する研究
  - ・ 開発途上国の新生児・小児ケアにおける質向上のアプローチに関する研究
  - ・ 途上国における保健医療サービス強化のための学校保健普及についての研究開発途上国における保健分野の人材開発制度への効果的な援助に関する研究
  - ・ 我が国の国際保健協力人材の継続的な確保に関する研究

# 5. 平成22年度の取組み状況 (その2)

## 【診 療】

( ) 内の頁数は事業報告書に対応

### ◆ 高度先駆的な医療、標準化に資する医療の提供 (P. 29~)

#### ○ 高度先駆的な医療の提供 (P. 29~)

- ・ HIV・エイズ患者に対し個々人の病態に即した医療を327例実施
- ・ 包括的治療戦略による新感染症に対する医療レベルの向上に寄与
- ・ インターフェロン治療の効果予測として実際の患者さんで測定を開始
- ・ 連続血糖測定が可能なシステムを活用した治療方針の策定
- ・ 先進医療について内視鏡下大腸粘膜剥離術のほか新たに5件を申請準備



#### ○ 医療の標準化を推進するための最新の科学的根拠に基づいた医療の提供 (P. 30)

- ・ 電子ジャーナルを整備し電子カルテシステムとの連携を開始
- ・ 医療の質の均質化を図るためカンファレンスへの取組を強化
- ・ 研究所の各種カンファレンスへ医師が参画し最新の研究成果を共有

### ◆ その他医療政策の一環として実施すべき医療の提供 (P. 35)

#### ○ 救急医療の提供 (P. 35)

- ・ 救命救急センターの状況 (平成22年9月認可)
- 3次救急搬送患者 1,106件
- 2次救急搬送患者 9,767件
- 全救急搬送患者 10,873件
- ・ 国府台病院精神科救急病棟新入院患者のうち重症身体合併患者の割合 13%



#### ○ 国際化に伴い必要となる医療の提供 (P. 35)

- ・ 海外渡航前健診とワクチン接種などの渡航相談、帰国後疾患治療を実施
- 総初診者数 2,561名 帰国後疾患診療初診者数340名
- 入院者数 56名
- ・ ミャンマー難民受入への協力
- ・ 総合感染症後期研修プログラムによる研修の実施
- ・ トラベラーズワクチン講習会の実施に向けた検討を開始

### ◆ 患者の視点に立った良質かつ安心できる医療の提供 (P. 31~)

#### ○ 患者の自己決定への支援 (P. 31)

- ・ カルテの開示請求に対する適切な対応
- ・ 個人情報管理マニュアルの作成及び全職員への配付
- ・ 患者相談窓口の支援体制の強化
- ・ セカンドオピニオンの推進

#### ○ 患者等参加型医療の推進 (P. 31)

- ・ 患者サービス推進委員会を定期的開催
- ・ 患者満足度調査によるサービスの改善
- ・ 意見箱の活用とボランティアの活動の相談支援

#### ○ チーム医療の推進 (P. 32)

- ・ 医師・看護師・コーディネーターナース等によるチーム医療をHIV・エイズの91%の患者に提供
- ・ 糖尿病分野及び肝炎とHIVとの重複感染患者の医療においてチーム医療を100%の患者に対し実施
- ・ 国府台病院では、各診療科の入院患者で「こころ」の問題を示した患者に対し、心の診療に携わる各科が対応したのは222例

#### ○ 入院時から地域ケアを見通した医療の提供 (P. 33)

- ・ 新宿区、新宿区小児科医会と協議し、地域連携の休日夜間の小児救急を週に2回 (年間98回) 実施
- ・ 診療所で必要な医療安全講習会、病診連携をテーマとした地域の4基幹病院と3大学病院のシンポジウムを開催
- ・ 近隣の医療従事者、地域住民も受講可能なリトリートカンファレンスの開催 10回開催

#### ○ 医療安全管理体制の充実 (P. 34)

- ・ 医療安全委員会の定期的開催
- ・ ヒヤリ・ハット事例の検証と対策の協議、情報共有
- ・ 医療安全ポケットマニュアルを作成し全職員に携帯を義務づけ
- ・ 医療安全、院内感染対策に必要な知識と態度を身につけさせるため新人研修会、その他の講習会を開催し全ての職員に受講を義務づけ

#### ○ 客観的指標等を用いた医療の質の評価 (P. 34)

- ・ 医療の質の評価に必要な基礎データを取り出すため、必要な医療情報システム環境 (データウェアハウス) を整備
- ・ 病院機能評価受審に向け必要な情報の収集や業務フロー改善を実施



# 5. 平成22年度の取組み状況 (その3)

## 【教育研修】

### ◆ リーダーとして活躍できる人材の育成 (P. 36)

- ・初期研修医105名、後期研修医131名
- ・初期臨床研修のマッチングは市中病院中全国トップ
- ・医師臨床研修指導医養成講習会を開催し指導体制を強化
- ・初期研修カリキュラムに疫学・医学統計基礎講座を設置
- ・後期研修カリキュラムに研究体験のコースを設置
- ・若手医師を対象にした海外留学制度を整備
- ・こころの健康づくり対策事業春期精神保健研修事業
- ・看護師の卒後臨床研修を実施



### ◆ モデル的研修・講習の実施 (P. 37~)

- ・エイズ拠点病院などの医師・看護師を対象とした研修会を実施
- ・一类感染症等予防・診断・治療研修をホーチミン市熱帯病院で開催
- ・「糖尿病診療ー最新の動向ー」と題した医師・医療スタッフ向け研修会を開催 (全国3か所延べ5回)
- ・精神科心理教育研修2回、摂食障害医療研修1回を実施

## 【情報発信】

( ) 内の頁数は事業報告書に対応

### ◆ ネットワーク構築の推進 (P. 39)

- ・HIVに関し、全国8ブロックのブロック拠点病院協議会を厚労省疾病対策課と合同で各ブロックで開催
- ・肝炎情報センターでは拠点病院間連絡協議会を2回開催
- ・児童精神科地域連携会議を6回開催

### ◆ 情報の収集・発信 (P. 40)

- ・分かりやすく見やすいホームページへ更新
- ・輸入感染症 (マラリア、デング熱、腸チフスなど) や一類感染症 (ラッサ熱) に関する医療者向け情報を充実
- ・一般の海外旅行者向け情報 (マラリア予防、下痢症予防) をホームページで情報提供

### ◆ 国への政策提言 (P. 41)

- ・エイズ動向委員会、薬事委員会、障害年金専門家会議、エイズ予防指針作業班会議、薬事審議会医薬品第一部会などに出席し専門的な立場から提言

## 【災害等への対応】

### ◆ 公衆衛生上の重大な危害への対応 (P. 41~)

- ・センター病院全職員を対象に災害訓練を実施
- ・災害マニュアルを改定し各職場へ配付
- ・NBC災害への対応マニュアルを整備
- ・生物テロ災害に関するマニュアルを改定
- ・東日本大震災への対応
  - ・発災当日DMATを派遣、宮城県東松島市鳴瀬地区に医療支援チームを継続的に派遣
  - DMATチーム 2隊 (9名) 診療チーム 7隊 (36名)
  - 心のケアチーム 1隊 (4名) ※22年度末現在
- ・新感染症の発生に向けた訓練の実施
- ・国内外の公衆衛生上重大な危害に対する多方向制情報交換の基盤を整備
- ・致死的なウイルス性重症肺炎の新規治療の提案
  - ・ベトナム国の高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) 肺炎症例に適用し、その有効性を検証



## 【国際協力】

### ◆ 国際貢献 (P. 42~)

- ・アジア、アフリカ等の開発途上国における保健システムの強化を図るため専門家を派遣 112件
- ・アジア、アフリカ等の開発途上国からの研修生の受け入れ 252名
- ・国際協力機構 (JICA) の緊急援助等の支援活動 3件
- ・国際機関、国際協力機構 (JICA) 等の調査研究・評価事業 32件
- ・国際保健基礎講座を開催 (国内の人材育成) 275名
- ・国際保健人材養成研修を開催 24名
- ・国際保健への取り組みをホームページを通じて広報
- ・ベトナム・バックマイ病院と医療協力に関する合意書を締結
- ・WHO協力センターとして年報の作成、ラオスでの現地調査を実施



# 5. 平成22年度の取組み状況 (その4)

## 【HIV・エイズ】

### ◆ HIV・エイズ (P. 44)

- ・ HIV・エイズ患者の診療実績 入院患者数 延べ 7,754名  
外来患者数 延べ12,361名
- ・ その他外部からの診療等に関する相談件数 2,832件
- ・ 患者教育用小冊子(患者ノート)を配布 8,280冊
- ・ エイズ拠点病院などへの研修を実施  
医師・看護師を対象とした研修を4回、専門薬剤師研修を4回、歯科研修を4回、短期研修を1回  
首都圏4カ所以上の都県に病院に対する出張研修の実施  
首都圏6カ所における研修受講者数 297名
- ・ 医療従事者が自己研修ができるよう研修内容をE-learningの形で公開  
ブロック拠点病院との連携支援  
石川県立病院に対し医師を派遣し外来診療をサポート  
東日本大震災後、仙台医療センターや福島医大などと診療情報を共有

## 【国立看護大学校】

( ) 内の頁数は事業報告書に対応

### ◆ 看護に関する教育及び研究 (P. 45)

- ・ 研究課程部に長期履修制度を導入
- ・ 認定看護師教育課程等の開催  
がん化学療法看護 16名  
認定看護管理者教育課程 12名
- ・ 短期研修の開催  
看護研究研修、せん妄ケア、院内教育、最新の科学的根拠に基づいた感染防止技術について開催 318名参加
- ・ オープンキャンパスの開催  
看護学部 2回開催 624名参加  
研究課程部 3回開催 24名参加
- ・ 公開講座の開催 2回開催 180名参加
- ・ 臨床看護研究推進センターの設置
- ・ 研究の推進と研究成果を外部に周知し研究紀要を発行



## 【業務運営の効率化に向けた取組みなど】

### ◆ 効率的な業務運営体制 (P. 46~)

- ・ 招へい型任期付職員、若手育成型任期付職員へ年俸制を導入
- ・ 研究者として高い知識を有する者など優秀な人材を公募により採用  
公募による採用実績 25名(うち任期付研究員14名)
- ・ 監査室による内部監査の実施
- ・ 事務部門における業務の一部を一元化
- ・ DPCへの取組として内部の配置見直しによる医事室の強化

### ◆ 効率化による収支改善 (P. 48~)

- ・ 6ナショナルセンターによる共同入札の実施  
医薬品、検査試薬、医療材料
- ・ 経営改善についての職員研修の実施
- ・ 国府台病院との共同入札の実施  
在宅医療機器賃貸借、レントゲンフィルム、精米
- ・ 棚卸しの見直し、業務内容の見直しによるコスト削減
- ・ 未収金督促マニュアルの見直し、クレジットカードによる支払方法の導入

### ◆ 電子化の推進による業務の効率化 (P. 51~)

- ・ 職員専用ホームページをリニューアルし機能の充実・利便性を向上
- ・ 外部からの不正アクセス防御のためのソフトを導入しセキュリティを向上
- ・ センター病院の新棟整備に併せ電子カルテシステムを導入
- ・ 医事会計システムの標準化

### ◆ 財務会計システム導入による月次決算の実施 (P. 52~)

- ・ 財務会計システムの導入による適正な会計処理の実施
- ・ 経営分析システムの導入による部門別月次決算の実施

### ◆ 法令遵守等内部統制の適切な構築 (P. 53~)

- ・ コンプライアンス室、監査室の設置
- ・ コンプライアンスの推進
- ・ 監事による業務監査の実施
- ・ 外部監査人による会計監査の実施
- ・ 契約事務の競争性、公正性及び透明性の確保

# 6. 平成22年度の財務状況等

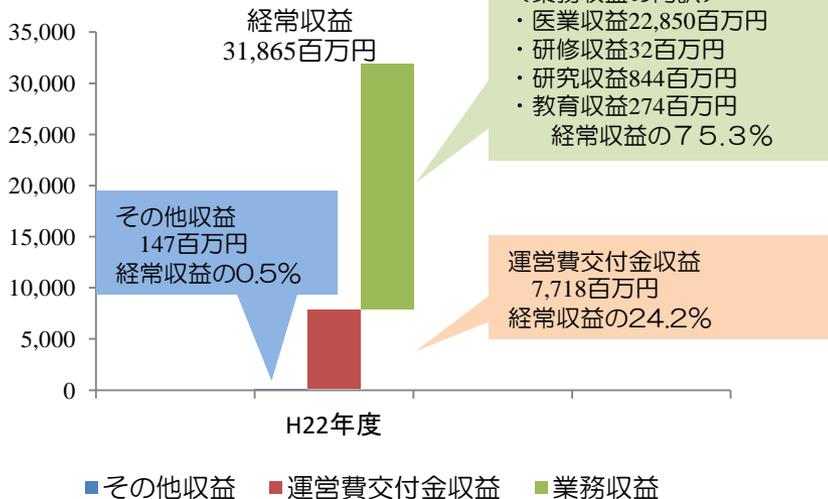
**【貸借対照表】**

(単位：百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
資産	97,019	負債	26,850
流動資産	20,070	流動負債	6,593
固定資産	76,949	固定負債	20,257
		<b>純資産の部</b>	<b>金額</b>
		純資産	70,169
資産合計	97,019	負債・純資産合計	97,019

(参考)

財政融資資金借入金残高 18,243百万円

**【運営費交付金の状況】**

**【損益計算書】**

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
経常費用	31,919	経常収益	31,865
給与費	15,831	業務収益	24,000
材料費	7,619	運営費交付金収益	7,718
減価償却費	2,504	その他収益	147
支払利息	289		
その他経費	5,676		
臨時損失	1,519	臨時利益	823
当期純損失	750		

経常収支率	99.8%	総収支率	97.8%
-------	-------	------	-------

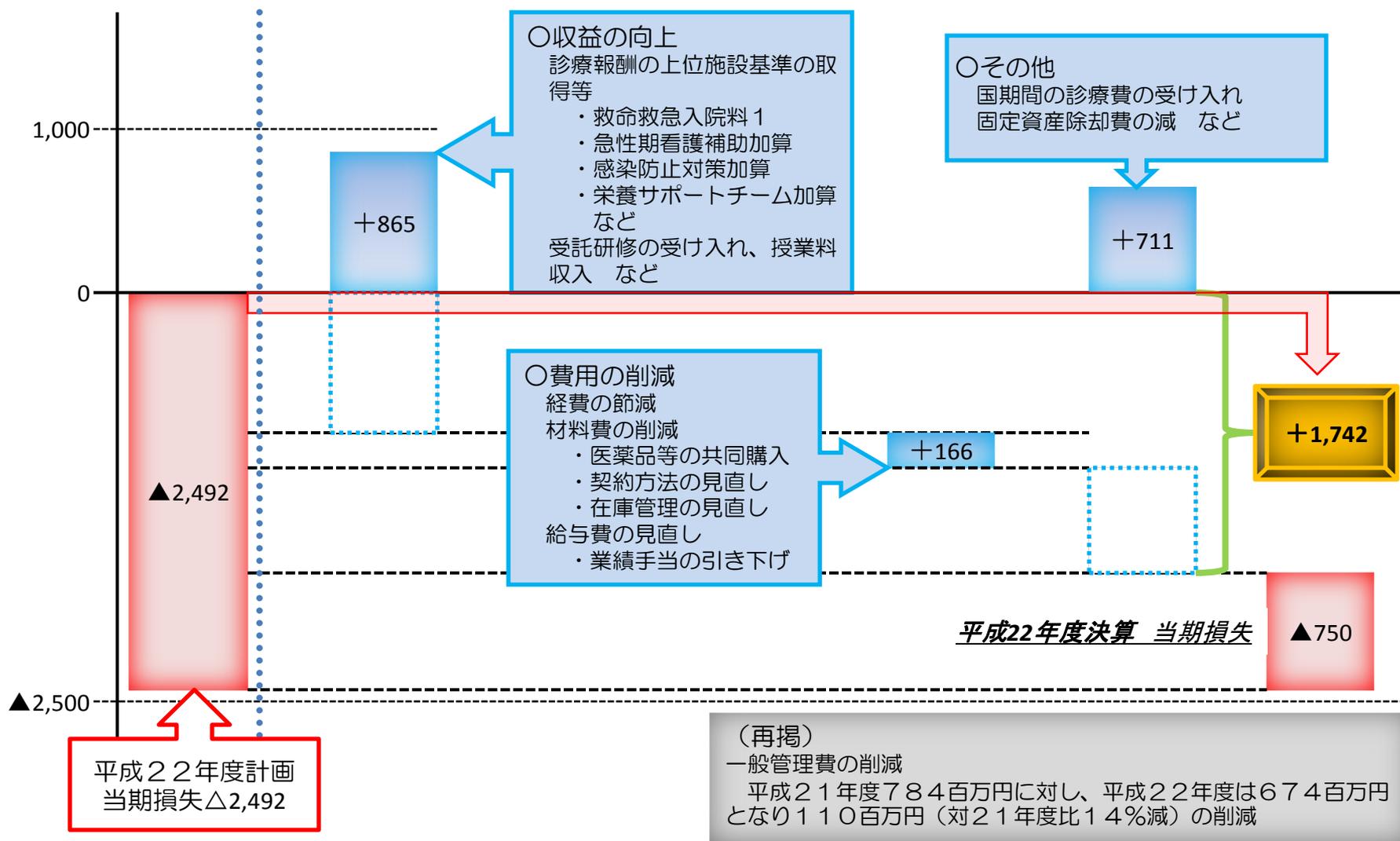
**運営費交付金収益の内訳**

- ◆ 研究、臨床研究 2,560百万円 33.2%
- ◆ 国際協力 712百万円 9.2%
- ◆ 診療
  - ・救命救急、小児救急、周産期、精神科医療など 680百万円 8.8%
- ◆ 国立看護大学校 702百万円 9.1%
- ◆ 教育研修、情報発信 2,001百万円 25.9%
- ◆ その他（退職手当含む） 1,063百万円 13.8%

# 7. 平成22年度に実施した経営改善

【主な取組み事項】

単位：百万円



# 8. 平成22年度事務・事業の実績

## 【主な実績】

( ) は、平成21年度実績

	単位	センター病院	国府台病院		単位	研究開発
1日平均入院患者数	人	631.3(696.8)	267.2(281.2)	外部研究費受入数	件	160(134)
うち一般病床	人	575.8(635.2)	143.3(156.1)	外部研究費受入額	千円	1,102,643(1,109,304)
うち結核病床	人	33.3(36.1)	—	受託研究受入数	件	151(100)
うち精神病床	人	22.1(25.4)	123.9(125.1)	受託研究受入額	千円	588,290(586,230)
1日平均外来患者数	人	1,591(1,625.4)	767.9(776.5)			
1日平均新入院患者数	人	43.0(45.7)	9.7(9.9)		単位	国際協力
平均在院日数	日	14.6(15.3)	27.0(27.8)	研修受入数(日本人)	人	102(129)
うち一般病床	日	13.7(14.3)	16.4(17.6)	研修受入数(外国人)	人	202(252)
うち結核病床	日	66.9(67.0)	—	海外派遣数	人	167(164)
うち精神病床	日	34.2(39.9)	65.1(73.7)			
救急患者受入数	人	19,964(21,081)	4,372(4,516)		単位	看護大学校
うち救急車による受入数	人	10,873(9,742)	2,044(1,840)	志願者数	人	630(533)
臨床研修医受入数	人	87(90)	18(19)	受験者数	人	595(505)
治験実施症例数	件	130(80)	53(78)	就職率*	%	96.6(95.9)

\*は、国立高度専門医療研究センターへの就職率